

# 令和3年度第1回富山市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和3年8月11日（水曜日）

午前 10時開会

午前 11時5分 閉会

2 場 所 本庁8階大会議室

3 出席者 富山市長 藤井裕久

富山市教育委員会

教育長 宮口克志

委員 若林啓介

委員 藤井久丈

委員 尾畑納子

委員 高田 健

事務局関係

教育委員会事務局

事務局長 金山 靖

事務局次長（総務・社会教育担当） 山本 貴俊

事務局次長（学校教育担当） 大久保 秀俊

教育総務課長 石黒 健一

学校再編推進課長 関谷 雄一

学校施設課長 井上 剛秀

学校教育課長 竹脇 孝志

学校保健課長 宮前 仁

生涯学習課長	高橋 祐子
教育センター所長	川端 紀代美
教育総務課主幹	大島 聡
教育総務課長代理（管理係長）	余川 毅
教育総務課主査	宮森 知佳
企画管理部	
企画調整課長	刑部 博規
企画調整課主幹	岸 聡之

#### 4 議題等

- (1) 議題1 「市立小・中学校再編計画の考え方（案）」について  
 議題2 「GIGAスクール構想の推進」について
- (2) 報告事項1 「牛乳に起因する集団食中毒の対応」について

#### 5 会議の要旨

##### ○開会

##### ○市長あいさつ

##### ○議題1 「市立小・中学校再編計画の考え方（案）」について

学校再編推進課から、下記の点について説明を行った。

- ・これまでの経緯と再編素案検討のプロセスについて（資料1 ページ～2 ページ）
- ・「子どもと学校、地域の未来を育むワークショップ」の中間報告（資料3 ページ）

## ○意見交換

### 【藤井市長】

金山事務局長からも補足をいただいたが、私もワークショップに参加してみて感じたのは、まず、自分らの地域を学校中心に考えてもらういい機会だったのではないかと思った。皆さんそれぞれ地域思いの方ばかりで、一生懸命将来のことをみんなで話し合っておられる姿が印象的だった。

ただ、1つ懸念しているのは、年度末に示す市の再編計画案が、そのまま計画案として採用されてくるのではないかということに心配している方が多いということ。決してそうではなく、これがスタートラインで、今後それをたたき台にして、さらに地域の方々、あるいは必要があれば児童生徒さんの声も聞きながら、進めていくというのが今後の進め方だと思っている。そういう観点からもまた皆さんの御意見を聞かせてほしい。

それでは、ただいまの件について、何か御意見があればお聞かせいただきたい。

### 【若林委員】

現在の状況を見れば、再編はやらなければいけない状況。可及的速やかに前進をしていかなければいけない案件だと思う。特に、複式学級になっている学校については、子どもたちに公平で適切な教育環境が提供できているかという問題もある。もちろん小規模校のメリットもあるが、デメリットがメリットを相当分上回ってくるということから、やはり早く進めていかなければいけない。

それからもう一つ、現在問題になっている教員の働き方改革との関係について。これは、地域コミュニティとの関わり方等とも併せて、この機会に少し見直しをする必要があるのではないのか考える。優秀な教員の確保といった観点からも、この機会にぜひ働き方改革へも御配慮いただきたい。

### 【藤井委員】

小中学校再編をどのようにまとめていくかという話の中で、14の地域生活圏とある。その地域生活圏というものをしっかりと見据えていくことは、これ

から必要ではないかと思う。例えば、私の分野でも地域包括ケアというものがある。これは、もともとの生活圏の中で、住み慣れた地域で過ごすということだが、その生活圏はどこかということになると、これは中学校区で考えたりする。ところが、中学校自体がそこでいいのかどうなのかということが問われる。もともと、その地域の児童の人口や家族の人口が確実な場合はそれでよかったが、今までのエリアだけで考えるということはなかなか難しい。その地域がこれからどうなるか、これは、まちづくり等とも関係してくる。SDGsではないが、その地域が持続していくためには、その地域の動向がどうなるかということを経験的に見ていく必要があるのではないかと考えている。

例えば、時代によって行動範囲というのがどんどん変わっていく。大きなショッピングセンターができると、少し距離があっても、人々は何となくそこに通うということがある。そのため人口の分布も、将来的にその土地がどうなるかで変わる。それからもっと言うと、これから働き手が少なくなる時代となっていくため、先生方が集まりやすい場所はどこなのか、こんなことも考えていくことが必要だろう。

そうすると、今、ひとまずは14の地域生活圏と分けて考えているが、今後の流れというものが、何か科学的に分析できれば、それを考慮した地域生活圏、そしてまた将来像の中での統合や、それから新しく建物を建てるということも考えていく必要があるのではないかなと思う。

例えば、私どもが教育委員として見学に行った品川区の学校も、巨大な地域の中に小学校・中学校があり、そこを中心に町の様々な施設があった。さらに、その地域にマンション等がたくさん出来上がっていく。そういったことを想定して造ったものだと思う。そう考えると、富山市としてどう発展していくかということを見据えた中での地域生活圏ということを考えていくことが大切で、これはすぐに結論が出るものではないと思うが、将来の市の計画等も含めて考えていただきたい。

それとともに、今度はそこから外れた場合どうなるか。中山間地をどうするか。ということも、別な次元から、全体としての生活圏の見直しや再考が今後必要ではないかと思っている。

### 【尾畑委員】

合併前の市町村をどのように考えていくのかという点が、今までとは少し方向性が変わるのかなと期待しているところである。大きな富山市の中で、災害や自然環境等を総合的に考えながら、それぞれの拠点をしっかりと作っていき、その中に、教育機関というものを位置づけていってほしいと思う。

また、情報インフラや教育のスマート化ということを考えながら、多少の距離があっても情報技術をうまく使いながら、しっかりと学べる新たな教育環境を作っていけるよう考えていく必要があるのではないかと思う。「14の生活圏」とあるが、それぞれの地域を守っていきながらも、過疎の部分についてどのようにしていくのかということも含め、今までと同じような見方ではなく、新たな教育の手法を使いながら検討していくことも大事なのではないかと思う。

保護者としては、ある一定のレベルの数の児童がいた方がいいということもあり、児童数が多いところに移動してしまうということが十分懸念される。そこで、そこにいても十分充実した教育が受けられるという、そういう視点がぜひ欲しいなと思っている。

### 【高田委員】

若林委員からも発言があったが、やはり再編は富山市で進めていかなければならないことだと思う。小規模校や大規模校、それぞれにいい点、悪い点があると思うが、極力適正規模になるように再編は進めていかなければいけないと考えている。

ワークショップの参加者を見ていると、小中学生の子どもを持っているであろう30代、40代の方も多いが、60代、70代の方が多く参加されている。そういった方たちにとっては、地元の小学校を残したいという意見もあると思うが、まずは子どもたちにとって何が一番適切かということを考えながら再編は進めていかなければいけないと思っている。

2校または3校以上での再編も検討するとなっているが、そうなった時、通学が大変になる生徒もいると思う。そういった児童が通学しやすいよう、通学のバスを出すことも必要になる。また、1つの校区においても、通学路に危険な箇所があると思う。それが、再編することによって、もっと多くなってくる

ことが想像されるため、子どもたちが安全に通学できるよう、そういった整備もしなくてはいけないと思う。

あと、ワークショップの中での参加者の意見にもあったが、学校跡地の利用についてだが、何かあったときの避難場所として、学校は大事な場所だと思う。ただ、こういったコロナもある中で、今の学校だと、避難してもプライバシーが守られないとか、大部屋にみんな放り込まれて感染の防止ができないということもあるので、そういったことも考慮しながら跡地を整備していくことを考えていかなければならないと思う。

### 【宮口教育長】

今ほど各委員さんからいただいた御意見、まちづくり・地域づくり・その地域の拠点という考え方については、確かに重要な点だと思う。それと子どもたちの教育環境をどう整えていくかということとのマッチングが非常に大切になってくる。そこで、総合教育会議を開催し、市長とも議論できるいい機会だと思っている。

そういったことを踏まえつつも、教育の質をどう確保するか、高めていくかということが教育委員会の使命だと思っている。

子どもの数が少なくなって、思うような教育ができないという状況に至ってからどうしようかでは遅い。過去の再編の経緯や実績を見ても、5年、10年、15年という長いスパンを経て、統合再編がなされてきている。将来を見据えて、どういうことを考えていけばいいのかということ、今から議論していかなければならない。「子どもの数が減ってから対応しては遅い」ということで、今このような取り組みをしているということについて、地域の皆さんにしっかりと御理解をいただきたいと思っている。

具体的には、資料1ページの右下の参考のように、再編対象校が赤字で記載してあり、単級、複式を持っている学校が挙がっている。しかし、その赤字の学校同士がくっついても適正規模にならないということがある。そこで、例えば富山中央でいえば柳町とどこが一緒になれば適正規模になり、子どもたちの通学が非常にスムーズになるのかということ、複数案考えていくことになるかと思っている。

そういったものを皆さんにお示ししながら、そして、地域の実情を勘案しながら、どういう方向で進めていくのかということ、議論しながら決めていくということになる。私ども、市長からも話があったが、今は計画のスタートラインであって、議論を本格的に開始するきっかけとなればいいのかなど思っている。

尾畑委員からもあったが、全ての学校を何が何でも再編して統合しましょうという考え方を、教育委員会は持っているわけではない。通学距離や、地域の特性ということも十分考えながら、その結果、ごくごく小規模な学校を残さなければいけないとなった時に、今課題となっている、大人数でいろんな意見を出し合いながら議論をするとか、切磋琢磨するという環境をどう整えていくかということ、これまで行われてきた教育のようにやるだけには、とてもそれは実現しないので、ソフトの面、教育の在り方ということも含めて、今はまだ言えませんけれども、水面下で様々な検討もしており、一部の学校で実践をしてもらっているところでもある。そういったことも並行してやりながら、一定規模・大規模・小規模、それぞれの良さをどう活かしながら、多様な教育の質をどう確保していくかということ、我々はしっかり取り組んでいかなければならない。

あわせて、市長部局の他部局との連携もしっかりと進めていきたい。教育の本筋ではないが、そういったことも地域の皆さんの要望として出てきていると思っているので、教育委員会としてできることは精一杯取り組んでいきたいと思っている。

#### 【藤井市長】

その地域がどうなっていくべきかという将来像をしっかり見据えて、その中心にあるのが小中学校だという観点。地域の将来像を併せ持つ観点、あるいは、なるべく現在あるものに併設していきたいということで、跡地利用をどうするかという防災上の観点、また、今のICTなどを活用して、どういうふうに教育格差、情報の格差をなくしていくのかということも含めて、それを利用する観点、あるいは先生方の働き方改革の観点等々、様々な意見をいただいたので、十分に参考にさせてもらい、また市長部局としても取り組めるところは取り組

んでいきたいと思う。

— 議題2、報告事項1 略 —

○閉 会